

## 第42回「桃陰文化フォーラム」

# ＜スポーツを通して考えるジェンダー研究の新展開＞

講師／<sup>らいた</sup>來田 <sup>きょうこ</sup>享子 先生（高34期）

**日時** 令和4年 11月5日（土）

13時00分～14時30分

**会場** 天王寺高校 多目的ホール（北館3F）

＜＜概要＞＞

社会のジェンダー平等やダイバーシティに向けた歩みにとって、スポーツは乗り越えるべき＜最後の砦＞だといわれています。この砦の土台は、＜性を区別して競う＞という、公平性を守るために作られた制度です。ジェンダー研究がこの砦とどのように向き合っているのか、スポーツ界の具体的な事例を交えてお話しします。

今回の文化フォーラムは、中京大学大学院教授の來田先生をお招きします。天高生としてどのような学校生活を送られたのか、現在のご活躍の裏でどのようなご経験をされたのか。來田先生からの貴重なお話を、この機会にお聞きになりませんか。多くの方のご参加をお待ちしています。

**聴講料**

無料

**申込方法**

電話、FAX、Eメール（お申し込みは下記のいずれかをお願いします）

■電話 06-6627-4386（同窓会事務局）

■FAX 06-6626-4467

■Eメール office@touin.org

大阪府立天王寺高等学校 「桃陰文化フォーラム」事務局

545-0005 大阪市阿倍野区三好町2-4-23

**申込締切**

11月 2日（水）

\*本校には駐車場がございませんので、お車での来校はご遠慮ください。

## <講師紹介>

來田 享子（らいた きょうこ）

1963年、東京で生まれ、大阪（住吉区）で育ち、現在は名古屋で暮らす。

大阪市立山之内小学校、大和川中学校を経て、1977年4月大阪府立天王寺高等学校入学（高34期）。

1986年神戸大学教育学部卒業、1988年神戸大学大学院教育学研究科修了（教育学修士）。7年間、奈良女子大学・京都大学等で研究生をしながら大学の非常勤講師をして暮らす。

研究者として生活できることをめざすべく、一大決心のもと関ヶ原を超え、1995年に中京大学大学院体育学研究科博士後期課程入学。3年で単位取得退学後、同大学院の助手として勤務しながら学位論文「日本女子スポーツ連盟による女性スポーツ促進運動に関する研究」を提出し、2000年3月に修了。博士（体育学）。

愛知学泉大学コミュニティ政策学部を経て、2005年中京大学体育学部（当時）助教授として母校にもどる。2008年から現職。

日本学術会議第25期連携会員、日本スポーツとジェンダー学会（JSSGS）会長、日本体育・スポーツ・健康学会副会長、日本スポーツ体育健康科学学術連合副代表、体育史学会副会長。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事。日本オリンピック・アカデミー理事。

\* \* \*

高校では陸上競技部でした。近畿大会に手が届くかどうか程度の競技力でした。怪我に悩まされ、医学もしくはスポーツ科学のどちらかの道をめざしながら、大学でも競技を続けたいから絶対、浪人はしないと決めていました。「憧れの先輩選手とリレメンを組みたい！」こともあり、進学する学部を決定。同級生の女性たちが上場企業の「総合職」を選択し、就活する姿を横目にみながら、何を職業として選べば良いのか定まらず…。完全にモラトリアムな状態で

大学院に進学。気づけば、いま、ここに…。

フォーラムでは、国際オリンピック委員会（IOC）やヨーロッパが進めているスポーツにおけるジェンダー平等政策を紹介します。

スポーツ科学は競技力や健康の向上をめざす学問、という印象が強いかもしれませんが。個性が大切にされ、自分らしく生きることができる社会のためにスポーツをどう活かすかに挑戦する分野もあることが伝わり、その挑戦を日常生活にも活かしていただければと思っています。



來田 享子

「桃陰文化フォーラム」とは、天高教育支援の一環として、各界で活躍する卒業生のネットワークを活用し、日頃授業ではなかなか学ぶことが難しい分野についてすぐれた講師をお招きし、講演やワークショップを通じて生徒諸君が広く世界に眼を開き、将来の自己実現・進路選択に役立てることを期すと同時に、地域に開かれた学校をめざすべく広く一般の方にも呼びかけ、参加していただくというものです。

なお、桃陰文化フォーラムは42回目をもちまして終了となります。講演していただいた先生、ご参加いただいた方々ありがとうございました。